

お互いさま

otagaisama

恵みあい、助けあう

特集

錦海リハビリテーション病院

回復期リハビリの専門病院として
病院機能評価を受審し認定される

クローズアップ

キッズタウンうきま夜間保育園

第二の家として、子どもたちに
寄り添う夜間保育園

キラキラ働き人

新しいなば幸朋苑

石井陽介さん 橋本康平さん

2022 April
季刊誌(年4回発行)

NO. 04



社会福祉法人 こうほうえん



上服用ロボット型運動訓練装置 (ReoGo-J) などの新たなリハビリも提供している。

回復期リハビリの 専門病院として 病院機能評価を 受審し認定される

リハビリに特化した 社会復帰を支援

住み慣れた土地で、その人らしく生きる。健康な時には当たり前だったことが、病気やケガによって当たり前でなくなった時に「その人らしく生きる」ことを支えていくのがリハビリテーション医療です。リハビリテーション医療は、回復の経過によって「急性期」「回復期」「生活期」の3段階に分けられます。ケガや病気を発症した時に命と健康を守る治療を必要とする「急性期」、その後生命の危機状態を脱して症状が安定に向かう「回復期」、そして地域での在宅生活を維持・継続していくのが「生活期」です。

「錦海リハビリテーション病院」は、脳卒中や脳梗塞などの脳血管障害と大腿部骨折の患者さんを中心に、大学病院や救急病院で急性期の治療を終え

お話を聞いた人



錦海リハビリテーション病院
すみだ さとし 院長
島根県松江市出身。京都大学医学部卒業。2007年に入職し、2017年病院長に就任。日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医。

た方を受け入れる回復期リハビリテーションを専門とする病院です。回復期は回復能力が高い時期であり、この時期に集中的なリハビリを行うことで、その後の安定した日常生活の維持につなげることを目指しています。

365日専門家による チーム医療で支援

当院の大きな特色は、2006年の開院時から48床全室個室とし、山陰地方で先駆けて1日3時間、365日の専門リハビリテーション療法の提供を実践してきた点が挙げられます。48床の単科病棟と規模は小さいものの、3名のリハビリテーション科専門医を含む医師5名や、リハビリの専門職である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、それから看護師、介護福祉士、社会福祉士、管理栄養士といった、十分な数のプロフェッショナルな人員を配置して、チームを組んで患

者さんを支援しています。こうした私たちの取り組みは、公益財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価」でも高く評価されました。病院機能評価とは、医療の質と安全の向上を目的に、一定の基準に基づいて第三者が中立の立場から医療施設を評価するもので、審査には本体審査と、専門領域においてより高い水準で評価を行う高度・専門機能があります。当院では開院10年目にあたる2015年に初めて受審をして認定を受け、今回が2回目になります。

病院機能評価の評価内容

病院機能評価の良い所は、井の中の

蛙々になつてしまいがちな自分たちの医療を、第三者の目から全国水準で評価してもらえらるることに加え、合格点だけでなく、専門家たちが改善ポイントを提供して下さる点にあります。私たちは前回の指摘を受けて病院全体で改善に取り組み、2回目の今回は、本体審査と高度・専門機能リハビリテーション(回復期)のそれぞれの最高評価であるS評価を11個、I評価を8個取得し、前回よりも高い評価を得ることができました。具体的には、専門家が複数、さらにスキルアップを奨励してより専門性の高いスタッフが育成する風土や、スタッフ全員が同じ制服を着用してお互いを尊重す

るフラットな体制、地域医療や老年看護などを学ぶ学生たちの実習の受け入れ、自動車学校と協働で自動車運転実習を行うなどの地域と連携した社会復帰へのサポート、そして地域住民に向けたフレイル対策などの啓発活動や、鳥取大学病院・山陰労災病院と協働しての脳卒中再発予防パンフレットの作成といった取り組みが評価されています。同時に、改善を目指すポイントの指摘もいたただけて、アドバイスを受けたその日から、スタッフたちは改善に向けて動き出しています。

その人らしく生きるために

回復期リハビリが目指すのは、患者さんの早期の在宅復帰および社会参加で

す。患者さんは自宅に帰る日が来ることを願ってリハビリに取り組んでいますが、独居・高齢者世帯の増加など厳しい現実も待ち受けており、本人もご家族も不安を抱えています。その中で私たちは患者さんが「その人らしく生きる」ためにどう関わっていくか、その方にとっての最適な医療とは何かを常に考えながら行動し、生活期においても自分で取り組める再発予防や外来指導を行ってまいります。回復期リハビリに特化した病院として、どれだけ地域包括ケアに貢献できるか、訪問・通所リハビリやフレイル予防など地域連携を深め、より質の高い医療を目指してレベルアップしていきます。



医師をはじめ専門性の高いリハビリストが多数在籍。



簡易自動車運転シミュレーター (SIDS) を導入し自動車学校と連携して患者さんの運転再開を支援。



中海に面し、院内はゆったりとしたつくりです。



左が本体審査、右が高度・専門機能リハビリテーション(回復期)の認定証。

第二の家として、
子どもたちに寄り添う
夜間保育園



うきま保育園に併設し、
広々とした開放感のある園舎で、
見学に来た人からは「広い」「綺麗」と
驚かれるそう。



現在は小林園長のほか、
10人の正職員の保育士と、
非常勤保育士4人、栄養士、
看護師、事務が在籍しています。



のびのびと遊ぶ子どもたち。
早めの登園やイベント参加など、
子どもたちの小学校就学を見据えた
保護者の方との連携も大切です。



イベントでは、
うきま保育園の運動会に
参加したり、夜間園独自の
イベントや発表会を行い、
子どもの成長を促します。



施設紹介

キッズタウンうきま夜間保育園(認可保育園)

- 住所 東京都北区浮間5-13-1
- 電話 03-5914-1332
- 定員 30名
- 対象児 生後57日～就学前(北区内の方)
- 開所日時
開園時間9:00～23:00
保育標準時間11:00～22:00
延長保育9:00～11:00、22:00～23:00



365日開所し、
遅くまで働く人をサポート

東京都北区にある「キッズタウンうきま夜間保育園」は、社会福祉法人こうほうえんが運営する認可保育園です。介護・障がい・保育の複合施設「ヘルスケアタウンうきま」内にあり、認可保育園「キッズタウンうきま」に併設していることが特徴です。夜間保育園とは、夜18時以降も保育サービスを提供する保育園のこと。同園の開園時間は午前11時～午後10時、延

方が長いかもしれません。職員たちは、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりについて、日ごろから想像力を働かせて考え、お互いに意見を交わして連携しています。「不思議と、夜の方が、子どもたちが本音を漏らすことが多いんです。その一言を受け止め、次のサポートにつなげています」と養護的なかかわりにも比重を置いています。

子どもたちの園生活は、昼間は体を動かしてたくさんご飯を食べ、決まった時間にお昼寝をして、夜は自宅と同じようにテレビを見たり、トランプやカードゲームをしたりしてのんびりと過ごします。「夜間保育園は夜型の生活をサポートしているわけではありません。夜間保育園だからこそ、生活リズムを整えることを大切にしています」と小林さん。3～5歳の園児たちは、友だちをたくさんつくって遊べる年頃。日中は併設するうきま保育園のクラスに入っ

お話を聞いた人



小林美樹 さん
2007年、「ヘルスケアタウンうきま」開所と同時に、夜間保育園の保育士として入職。2019年から夜間保育園の園長を務める。

長保育は、朝は9時から、夜は11時まで対応し、365日お子さんを預かっています。

保護者の方の職業はサービス業や飲食業、塾の先生や病院関係者などさまざま。皆さん土日や夜遅くまでお仕事があり、365日子どもを預かってもらえる夜間保育園は子育ての頼もしい味方です。園長の小林さんは「卒園の時に保護者の方から『ここに預けることができたから今まで頑張れました』『こがなければ、今日を迎えられなかった』と言っていたのだから、自分たちが助けになっていたのだな」と、やる気の原動力になっています」と嬉しそうに話します。

夜間保育だからこそ
発達や情緒を細やかにケア

園児たちにとって、夜間保育園は第二の自宅のような場所です。ひよつとしたら、自宅よりも園にいる時間の

地域の家庭を支える
存在であり続けたい

現在はコロナ禍で中断していますが、活発な世代間交流も複合施設ならではのメリットです。園児たちは併設している介護施設のご利用者であるおじいちゃん、おばあちゃんから可愛がられ、「自分たちは愛される存在だ」と感じ、また体が不自由な方に対する思いやりの心を持たせてもらえる大切な機会になっています。

一方で職員たちの労働環境の整備も大切です。「365日開園していて、しかも夜間保育園。職員の力がなければ運営できませんから、大事にしていきたいです」と小林さん。子どもがいる人、午後から働きたい人、平日休みにしたい人……。それぞれのスタイルに合ったシフト編成で無理なく働くことができ、長く勤めている職員も多いです。

世間一般にも、まだあまり知られていない夜間保育園。しかし夜に保育を必要としている人は確かに存在しています。「困った時にご家庭をサポートする選択肢として、地域にあり続けることが大切。夜間保育園を存続し、内容を充実させていくことが目標です」と今後も地域を支える存在としてあり続けることを目指しています。

☆☆☆
＼キラキラ／
働き人
☆☆☆



はしもと・こうへい
橋本康平さん

＼お2人が勤務する／
**特定施設入居者生活介護
新しいなば幸朋苑**とは？

2004年10月に開設し、現在29名の方が入居しています。建物の階下はケアハウスであり、双方の職員がお互いに協力して一体的な支援に取り組み、充実した生活と身体機能向上の両立を目指した支援を実践。昨年度から生活総合機能改善機器を導入し、レクリエーション体操をスタート。日々の楽しみとしてご入居者に喜ばれています。



いしい・ようすけ
石井陽介さん

プロフィール



橋本康平さん

介護福祉士。県外での物流関係の仕事を経て、Uターンを機に介護の専門学校に通い、2016年に入職。2022年からチームリーダーを務める。休日は読書に没頭し、公私の区切りをつけている。

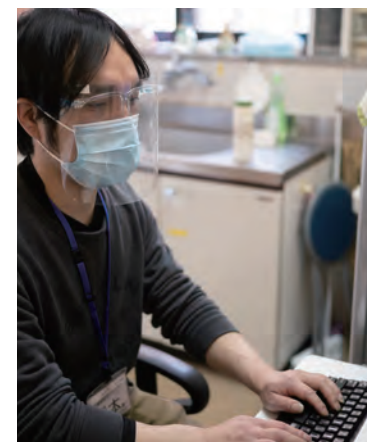
**ご入居者を主体に置いて
生活を支援しています**

些細なことが喜びになる
入職以来、介護福祉士としてご入居者がより充実した生活を送れるようなかかわりを心がけてきました。ご入居者の認知症状の度合いや心身の状態にもよりますが、介護の仕事は思い通りに進まないことがたくさんあります。そこが難しくもあるのですが、その分少しでも進展があると喜びもひとしおです。時には自分の思う方向に進めたくもなるのですが、主体はご入居者ですから、自分本位にならないように相手の話をよく聞いて、言葉を選んで話すことを意識しています。
また、ご家族との連携も大切な仕事です。現在、リモートでの面会は可能ですが、直接会うことはできないので、ご家族は内部の様子や、ご入居者の状況を直接確認することができません。中の状況を少しでも知っていただけるように、ご入居者の様子を小まめに写真に収め、密に報告するよう心がけています。

チームでご入居者をケア

ご入居者は、以前はお花見などの屋外でのイベントを楽しんでいたのですが、コロナ禍で現在はそれも難しい状況です。生活に刺激がないと、部屋にこもりがちになったり、認知が進んでしまったりすることもありますから、少しでも楽しみが増えるように、レクリエーション体操や室内イベントを工夫して開催しています。

ご入居者の心身の状態や認知症状によつては、かわりそのものを拒絶されることもありませんが、そんな時に力になってくれるのが職場の仲間たちです。普段からコミュニケーションをとって小まめな情報共有を心がけ、一貫した対応ができるようにチームでケアを行っています。私自身は今年からチームリーダーを任せ、チームをまとめていく立場になりました。みんなの意見を吸い上げ、頼りになる存在を目指しています。



**職員が働きやすい環境を整え
質の高いサービスにつなげます**

施設全体の管理者として

施設長の仕事は、現場で働く職員や施設の管理・運営がメインになります。特に職員の働きやすい環境の整備は、ご入居者の介護や生活を支え、より良いサービスを提供するためにも重要な仕事です。現場で困っていることはないか、導入したいものはないかといった相談を拾い上げ、問題の解決や対応を図っています。施設を運営していく上で、緊密な情報共有はとても大切です。現場とのコミュニケーションはチームリーダーや介護主任、ケアハウスの相談員らと連携を取り、相手の立場に立つたわかりやすい言葉や表現を意識して、明確に伝わるように心がけています。
またトラブルの際に前面に立つて対応していくのも管理職の役割です。大変なことではありますが、その都度勉強をさせていただき、自分自身の糧となっています。身近に相談できる同僚や上司の存在があったことも、感謝しなければいけません。

職員と密に連携し対応

コロナ禍により、介護業界もさまざまな対応を迫られています。こうほうえんでは法人全体でパソコンやタブレット端末の導入、さらにWiFi環境の整備を進め、リモート面会や職員研修に活用されています。また、職員のお子さんの学校が臨時休校になるなど、欠員が発生することも珍しくありませんが、私たち管理職が指示を出さずとも現場レベルで対応し、お互いにフォローをし合う関係を築いています。

今後は大掛かりな新しい事をするというよりも、職員のステップアップになるような新たな業務を取り入れていきたいと考えています。職員たちとはこれからも密にコミュニケーションをとりながら、働きやすい環境をコツコツとまじめに整えていきたいです。ひいてはそれが、より安心できる質の高いサービスの提供へとつながっていきます。



プロフィール



石井陽介さん

ケアハウス新しいなば幸朋苑施設長。「誰かのためになる仕事をしたい」と福祉系専門学校を卒業し、2002年に入職。現場の介護職から主任や相談員などの管理職を経て、2020年4月より現職。

「健康経営®宣言」

こうほうえんが持続的な成長を実現していくうえで、職員とその家族が心身共に健康であることが重要と考え、以下のとおり「健康経営®宣言」を定めます。

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

「こうほうえん 健康経営宣言」

こうほうえんは、職員とその家族の心身の健康がもっとも重要であると考え、健康保持・増進活動に対して積極的な支援と組織的な健康づくりの推進に取り組めます。

また、利用者、地域住民と力を合わせ、健康で活力にあふれる「地域共生社会」の実現を目指します。

主な取組内容

1.からだの健康づくり

- 定期健康診断受診の徹底
- 特定保健指導の実施率の向上
- 全国健康保険協会と連携した健康増進活動の実施

(2)こころの健康づくり

- 相談窓口利用による早期発見
- メンタルヘルス不調者に対する個別サポート
- ストレスチェックの実施と結果を踏まえた職場環境の改善

(3)働きやすい職場環境づくり

- ワークライフバランスの推進(有給休暇の取得推進等)
- 業務効率化等による総労働時間の短縮化
- 完全禁煙実施による受動喫煙の防止
- 多様な働き方への対応

2022年4月1日 社会福祉法人 こうほうえん 理事長 廣江 晃

寄附者 一覧

※令和3年12月～令和4年2月にご寄付をいただいた皆さま

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。

皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

金児朋子様/佐藤裕輔様/濱副隆一様/石原正信様/北山朋宏様/
伊藤明子様/仲山美名子様/大山泰之様/大山晶子様/石田晤玲様/
三代久美子様/八田明久様/増井幸雄様 ほか72名

寄付金合計額:3,697,000円

ボランティア 一覧

※令和3年12月～令和4年2月にボランティアにご参加いただいた皆さま

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます。

<さかいエリア>

- 車いす清掃…酒井金壽様 ● お正月に飾る花を生ける…大津眞教様

<西東京エリア>

- 傾聴…3名 ● 歌…1名 ● 植栽活動…30名 ● 生活援助…1名

<よなごエリア>

- もちつき…地域の方(2名)

<なんぶエリア>

- マザーズ様(2名)



法人本部事務局

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳1400

TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113

フリーダイヤル:0120-418-658

E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-3-7KSビル203号室

TEL:03-3365-1331 FAX:03-3365-1339



2014年度日本経営品質賞大規模部門
(鳥取地区/介護)受賞



こうほうえんはISO9001-2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービス日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索

<https://www.kohoen.jp>